



三重トヨペット × 三重ブランド



人と自然の力。
海と大地と太陽と——
三重の自然は優しい「力」です。
その「力」を引き出すのは、
秀れた人の技。
出会いが奇跡を生みました。



萬古焼の急須も有名。釉薬をかけずに焼き締めてあるのが特長で、これにより、お茶の味がまろやかに。「急須は萬古」と讃えられるようになった。美しさに磨きをかける「酔月陶苑」の急須は、日本伝統工芸展で入選を果たす。一方、家庭で使いやすいよう進化しているのが『藤総製陶所』の急須。注ぎ口と同じ陶器製で、本体と一体化した茶こしを最上部に据え付けることで、最後の一滴まで美味しいお茶を出し切れるよう工夫が凝らされている。

◆三重ブランドとは？

三重県の豊かな自然・伝統の中で育まれた生産物の中から、特に優れた県産品とその生産者を県が認定。三重ブランドとして情報発信することで、三重県の知名度を向上させるだけでなく、生産者の意欲向上や、地域経済の活性化を目指しています。

三重ブランドホームページ
<http://www.miebrand.jp>

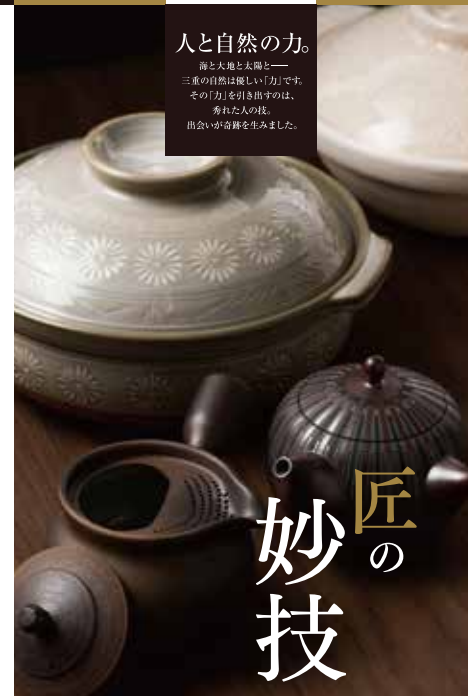


四日市萬古焼の歴史は、今から280年以上も前にさかのぼる。桑名の豪商・沼波弄山（ぬなみろうざん）が現在の朝日町小向（おぶけ）に窯を築いたのが始まりとされている。このとき、作品に押し入れた印が「萬古」または「萬古不易」。「作品が変わらず永遠に残っていくように」との願いが込められている。

国内トップシェアを守るのが、四日市萬古焼の土鍋。国産土鍋の約8割を、萬古焼土鍋が占める。多くの人に愛される理由は、頑丈さ。戦後、ベタライトという鉱石を生地に加えることで、耐久性と耐熱性がぐんと上がった。「銀峯陶器」のシリーズ「花三島」は土鍋の顔ともいえる代表的存在だ。「華月」の「大黒」は土鍋「は、高い耐熱性と手入れのしやすさで、プロの料理人から支持されている。

四日市萬古焼

今年は、萬古焼創始者である沼波弄山の生誕300年という記念すべき年「萬古」の2文字に込められた、作品への熱き想い 伝統を受け継ぎ、革新を追い求める陶工たちの胸には、その想いが今も息づく



匠の
妙技



Vol.3
平成30年4月春号
次号は松阪市飯高町へ

陶器づくり体験 四日市市

萬古焼窯元「光風窯」さんの陶芸教室へ。3人で本格的な陶器づくりに挑戦。陶芸家の熊本先生が丁寧に教えてくれて、とっても楽しく作ることができました。



焼き上がりまで6週間。世界でひとつの茶碗の完成です！萬古焼の土鍋でご飯を炊いていただきます。

歴女コンビ：吉村はみりさん、山本那未さん

光風窯陶芸倶楽部
一日陶芸体験 ¥2,160～

「C-HR」おすすめポイント！！

「カッコよさと実用性の両立」というSUV本来の特徴をバランス良く実現したのがC-HR。シーンに合わせた電気とガソリンの切り替えもハイブリッドならではの。燃費走行も期待できます！

いちご狩り
5月下旬ごろまで



アクアイグニス内のTSUJIGUCHI FARMでいちご狩り！つみたてをたくさん食べて、カフェではショートケーキのいちごづくしで大満足！。おや？隣りのバン屋さんからは焼きたてのいいにおい！！

アクアイグニス
菟野町



みんなおいしい～
どれにしようかな

御在所ロープウェイ
菟野町

乗車運賃（往復）
大人2,160円
小人1,080円



お腹が膨れたら次は
絶景を堪能！！ 標高
1200mまで登る12分
の空中散歩は圧巻！

C-HRに乗って 今回のドライブは
おなかも
こころも まんぷく★歴女旅

今年は四日市萬古焼300年の記念イヤー。歴史大好きな女子2人が向かうのは、陶芸体験で茶碗づくり！でも、腹が減っては戦はできぬ…ということで、湯の山温泉アクアイグニスからスタート。まずはお腹をいっぱい満たしてから、いざ出陣！！

C-HR



グレード：G オプション装着車
センシティブレッドマイカ